

# まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構顧問 原田雄一郎



昨年の年末に、「少急落、それでも高値」なぐも、1億円を超えといふコメントも見えるだろう」という予想が外国インターネットに流れるなど、国際社会の関心が例年にも増して高まっていた築地市場の今年のマグロ初セリ。

結果は、クロマグロの最高値は一本736万円。落札した「すしざんまい」の木村清社長が「正常な値段に戻って、よかった」との発言が、「期待はずれ



円を超える初セリ値段でも、年明け早々、世に關する外国の主な報道機関などの記事も、本が話題の中心として取り上げられるのは、水産物の中ではマグロの他にはない。マグロの初セリを通して、日本の商習慣や食文化に對する国際社会の理解

## 太平洋クロマグロの鍵握る日本

### 若年魚の漁獲減の厳守を

が深まれば、言うことではない。また、ついでに、日本が責任あるマグロ漁業国であり、消費国であることも併せてPRされれば、それに越したことはないのだが。

◆年明けの世界の話題、マグロ◆  
◆海外の報道に変化◆  
今年、マグロ初セリの歴史をたどるレポート

た記事は見あたらない。むしろ、祝儀相場の解説や、昨年、異常な高値をもたらした背景や、米国では960年代、ペットフードの原料として無料あり、論調に変化が感じられた。いずれにしても、「世界のクロマグロの80%を消費する日本」という決まり文句は、今年も付いており、日本のマグロ資源の管理責任を問う素地がなくなっている。

◆不安煽る環境保護団体◆  
中でも、環境保護団体は、これまでの初セリの値段を列記し、これが、太平洋のクロマグロ資源の危機をもたらし、訴えている。特に、太平洋クロマグロの漁獲の90%以上が産卵する前の若年魚であり、このままでは、将来的に枯渇する

(毎月1回掲載)